
THE GAME WORLD

160キロ100マイル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

THE GAME WORLD

【Nコード】

N6873A

【作者名】

160キロ100マイル

【あらすじ】

誰もが信じていないでしょう？突然自分がゲームの世界に来るなんてでも、ゲームのように事あるごとに上手く行かなかったら？人は混乱に陥るでしょう。不思議な世界、されどゲームの世界。

O P l a y 始まり

特に何も無い空間

これがボクの部屋だ。

ここに何年もこもる日々

いつからだろう？

毎日毎日、パソコンに向かうボク。

そんなボクを親は何も言わないし、どーせ、どうでも良いのだろう。

ボクの日常これでいい。変わらなくても。

でも変わってしまった。何故だろう？いつからだろう？

尋ねても返事は無い。

一体ここはどこだろう？何をすれば良いんだろう？

疑問ばかり頭をよぎる。

1つだけ、ボクがここに居るのは多分
している。

これが関係

ただの石ころに見えるけど、金属製だ。

朝、起きたらパソコンの前にあった。

そしてパソコンを起動したら目の前が真っ暗になったり、真っ白になったりして、今、この石をただ持って、真っ白の何も無い空間に

居る。

「はは、真っ白で何も無い……………」

途方に暮れたボクは呟いた。

どんなに、どんなに歩いても終わりは無かった。同じ空間が広がるだけ。

ここに来て、どれくらい経っただろう？時間もわからない。

それどころか、ただ真っ白の空間だし、何も聞こえない。この空間で分かるものは何も無い。

自然と……………僕の関心の全ては石に集まった。

金属と判断したが、金属に似てるだけ……………金属ではない……………じゃあ、何？

まただ。またいらない疑問を抱いた。

でもボクは石を触りつづけた。

ふと、ボクの中の間覚は無くなつた。

その時だつた、石がボクを包み呑み込んだ。

今度ボクが来た世界は、まるでRPGのゲームの世界だつた。

1 Play 降臨

「一体……ボクはどうなったんだろ？まるでゲームの世界だ。ここ」
もう独り言でしかない。そんな事は分かっている。

ゲームの世界なんて信じられなかったけど……ボクが選ばれた勇者だったら良いな
とか。

この世界なら、ボクは強かったりして

とか。

考えるようになった。突然物陰から、ゲームの世界っぽいから魔物とか、モンスターとでも言えればいいのか
それらしい物体が飛び出した。

夢？ゲーム？とか本気で思ったけど、ゲームと違ったのは、このモンスターが可愛い物でなくて気色悪い事。

気にせずボクはゲームなら得意だとか、強いのかもとか……色々と安易な考えで、モンスターに向かって走った。

衝撃。顎から脳に向かって何かわからない電流に似た物が、走りぬいた。

「痛い、痛い、痛い……！」

ゲーム？勇者？夢？何を考えていたんだ？

血が出てるし、今まで味わった事が無い

ゲームなんかじ

や無い。現実だ。信じられないし、信じたくも無いけど、認めざるを得ない。

「ありえないよ！！何なんだよぉ！！ボクが何をしたっていうんだ！！！！！！」

現実逃避

ボクはまた、この方法で逃げようとしたが、

逃げ道は無い。

今はただ、あのモンスターなんかじゃなく怪物から、走って逃げるのみだった。

ゲームなら、ここで何か起きろよ。誰かが助けにくるとか、色々展開があるだろ？

そうだ。この石が戦う武器に変形するとか無いかな？

ボクは石を握り締めた。何も反応が無い。振ったり念じてみたり、試みた。しかし、反応は無い。

ボクが一方的に思った期待だが、期待外れもいいところだった。

どうしよう？どうしよう？追ってくる。

運動能力なんて無いし、ましてや喧嘩もした事が無い。こんなボク何ができる？夢なら覚めてくれ。

痛い。

悲痛の叫びは誰にも届かない。

ダメだ

限界だ。体力なんてすぐに切れてしまった。

諦める

ボクにとっては日常茶飯事。成績、友達、将来。

色々な物を諦めてきた。

だけど、さすがに今は違う。痛い、何より死に関わるかもしれない死んでもいいかと思ったこともあるけど、恐怖心で、死にたくないという気持ちが、表に出た。覚悟なんて少しも出来ていなかった。

今、何故か死に直面している。不思議なゲームの世界に来て

。

助けて

。

目の前に人が5人くらい立った。

やっぱりゲームだ……しっかりと助けが来るじゃないか。

良く見ると、人ではなくモンスター？でもゲームのそういう種族なのかも。

だが倒れているボクに刃を向けてきた。

え？なんでだよ？おかしいだろ。そこは。

もう、逃げるしかない。限界を越えてた気がする。ランナーズ・ハイだっけ？それかも？

ボクは何とか振りきる事が出来た。

ホントに死ぬかと思った。

今は暗い洞窟の中でうずくまり、ボーっとしている。

ゲームの世界に似てるけど、そうではない、似て非なる全くの別物。

とりあえず死なないために、ボクは生きる事を誓った。

何故だかは分からないけど、お腹も空かないし、眠くもならない。

「誰か居るのか!？」

洞窟の奥から、人の声がした。やっと、ゲームらしい展開か?それともまた、裏切られるのか?

ボクは恐る恐る、声の方へ近づいた。出てきたのは、人間だった。とても、気の優しいそうで温和な顔をした男の人だった。しかも金髪に青い目…外人だ。何故日本語をしゃべれるのか?しかし、ボクにはもう、どうでも良い事だった。

ボクはこの人から、この世界の現状を聞いて驚愕した。

もしゲームの世界なら、平和に暮らす人間達がいてこっそり暮らすモンスター。そこに魔王などが現れて勇者が闘うとかだろう。

だがここは、平和に暮らすのはモンスター、こっそり暮らすのが人間。だと言っただ。

人間はモンスターに狩られるのみ、だから逃げ回るしかない。

ボクは、なんて世界に来てしまったんだ？ゲームの世界なんかじゃないここは。

「・・・・・・・・・・・・・・・・！！！！」

外から何かが叫ぶ声がした。モンスターの奇声である。もっとも人間には聞き取れないだけだが。

「見つかったか……………新しく来たとか、よく分からん事を言っていたがここはそういう世界。肝に銘じておけ」

男はボクに向かってそう呟いた。もう逃げ道はなかった。

「そう言えば名前言ってないし、聞いてなかったな。俺はマッシュだ」

「ボクは、僕名前は…」

「

マッシュの顔が弾け飛んだ。鮮血を帯びて鉄が折れるような音と共に。

「うわぁっあ！！！！」

腰が引けたそして目の前には、今日見た人の姿をした怪物がいた。

ヤラレル

本能はそう、感じ取った。

石が共鳴のような、ガラスの擦れる音を出した。ボクの体どうしたんだ？体が熱くなって…何故か、今アイツらモンスターの

言葉が分かった。

「怪物だ！！人間の特殊変化だ！！」

ボクの体は僕の意味とは関係無しに動いた。

殴った。初めて物を殴った。その一発はモンスターが粉々に噴き飛ぶほどの、威力だった。

モンスターは逃げた。魔王が降臨したと言う叫びと共に
。

ボクはこの世界を救う勇者じゃない、この世界を滅ぼす魔王だった。そう、石の力で魔王と化したボクは何故ここに來たのか理解した。

前の世界で閉じ込めた感情を、全て表に出し、何も諦めなくていい、全て思いのまま理性のかけらも無く、行動すれば良い事を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6873a/>

THE GAME WORLD

2011年1月20日03時05分発行